

活動報告書

報告者氏名:野中 純子 所属:大阪府立岸和田支援学校 記録日: 2015年 2月 13日

【対象児の情報】

・学年

高等部 3 年生男子

・障害名

脳性まひ(左片麻痺)

・障害と困難の内容

社会的慣習・感情は持っているが言語化されておらず、日常のやりとりは、マカトンサインの一部とジェスチャーが主。発語は不明瞭。文字も 50 音全ての習得には至っていない。言われていることがわからないときもあり、相手の様子を見てからしか動けないことが多い。集団の中では取り残され、不安・ストレスで呑気症の症状を引き起こす。自分の言いたいことが相手に伝わらず、伝えることをあきらめてしまうこともある。

【活動目的】

・当初のねらい

シンボルを使って自分の意思を伝えたり、写真・絵文字を使ってメールによるコミュニケーションを楽しみ、感じたことや思ったことを人と共有する。また、外出先で、困ったときや感動を共にしたいときにテレビ電話通信も使えることを知る。

・実施期間

2014 年 6 月 28 日～12 月 19 日

・実施者

野中 純子・田畑 彰瑛

・実施者と対象児の関係

野中 純子(自立活動専任・週 1 時間言語学習を担当)

田畑 彰瑛(学級担任・週 2 時間言語学習を担当)

【活動内容と対象児の変化】

・活動の具体的内容

<時間帯及びその内容>

自立活動(コミュニケーション学習);週2時間			
火	自立活動専任教員(野中)	金	学級担任(田畑)
曜	学級担任(田畑)	曜	学年担任
主に、アプリ [Drop Talk] を使ってシンボルによる多語分の表現学習(あいさつや行事・週末の出来事のふり返り)やその他のアプリの使用方法・メール送信の方法・テレビ電話の操作や使い方の習得等の基本的な学習と買い物学習や夏(冬)休みの思い出の発表原稿作成等の実践的な学習を行った。			

<買い物学習>

2学期に数回、学校の近くのスーパー等に一緒に学習している友だちと買い物学習に行った。往路には、アプリ [MapFan eye] を使用した。目的地までの徒歩ルートがカメラの映像の中に投影され、iPhone を前方にかざせば進む方向や曲がる場所がわかるものである。また、校内で教室掲示にも利用しているシンプルでわかりやすいシンボルを使ったアプリ [Drop Talk] で iPhone をVOCAとして使用し、店員に売り場を聞き案内してもらった。メールの学習として、売り場で自分の好きなTシャツを選んで撮った写真をシンボルと一緒にアプリ [LINE] で母に送り、シャツの購入の承諾を得た。買い物を済ませた後は、別の売り場で買い物をしている友だちにアプリ [Tango] (比較的通信状態が安定し生徒が使いやすい) を使ってテレビ電話をかけ、周囲の店などを映し出し、自分のいる場所を知らせて待ち合わせすることにした。



気に入ったTシャツを写真に撮って、メールで母に送る。



店の人に売り場を尋ね、案内してもらう。



買い物先で、一緒に行った友だちと、テレビ電話で待ち合わせをする。

・対象児の事前の状況と事後の変化

活動内容	事前の状況	事後の変化
店へ行く	初めていく店は、地図の見方がわからないため引率教員と並んで歩き、ついていっただけであった。	色々な地図アプリを試したが、[MapFan eye]は視覚的・直観的に容易に理解ができ、初めて行く場所でもゲーム感覚で先頭に立って楽しみながら教員や友だちを案内することができた。
売り場へ行く 商品の注文	引率教員について行き、売り場に到着していた。商品を注文する場合も、引率教員が生徒に代わって注文する。	店員を呼び止め、[Drop Talk]を使って売り場を尋ね案内してもらったり、買いたい物を注文したりすることができた(尋ねたり注文する内容は、予めキャンパスにシンボルを貼り付けて事前学習時に練習しておく)。
支払い	財布からお金を出し、引率教員に硬貨を選んでもらって支払う。	[コインクロス]などを使ってお金の学習をした。硬貨の種類については理解できたが、支払いにどの硬貨をどれだけ出せばよいのかを理解するのは難しく、紙幣を出してお釣りをもらうことにより一人で支払うことができた。
友だちとの待ち合わせ	友だちが集合場所に来るまで漫然と待つ。	テレビ電話を使ってサインで待っていることを伝え、カメラを背面にして周囲の状況を相手に見せ連絡を取り合うことができた。
全体を通して	商品を選択する以外は全て引率教員任せで、自分が行動を起こすことは少なかった。	売り場を尋ね、母から頼まれた物や自分の欲しい物を選んでレジに持っていく(購入する)という一連の行動は理解し、一人で実行に移すことができるようになった。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

iPhone を利用した買い物学習では、「自分でお店に行き、自分で欲しいものを選んで購入し、自分から友だちに居場所を知らせて待ち合わせをする」という主体的な取り組みができた。

これまでサイン(ジェスチャー)と相手の表情だけで意思の交換をしてきた生徒が、iPhone を媒介とすることで色々な方法によってコミュニケーションを取ることができ、生徒のコミュニケーション意欲とシンボル・写真による表出力の向上を感じた。

また、携帯電話を持っている同級生の友だちから、メールをしようという誘いを受けた。友だちとメール交換をするようになって、教員以外と話すことがなかった生徒がその友だちとジェスチャーを使って話している姿もみられるようになった。このことをきっかけに人間関係の広がりが見えてきたように感じる。

・エビデンス(具体的数値など)

メールについて、1 学期の修学旅行では写真しか送ることができなかったが、Dropsのシンボルをカメラロールにダウンロードしてメールに貼り付ける学習をした。買い物学習以外でも家族や教員とのメールのやりとりを重ねていくことで写真とシンボルを併用して使えるようになった。校外学習では、見てきたことだけでなく、どう思ったかを送ることができるようになった(楽しいを表すシンボルを使って感情表現ができるようになった)。

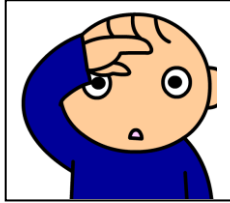
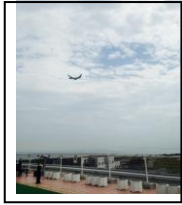
<修学旅行>



ホテルの晩ごはん

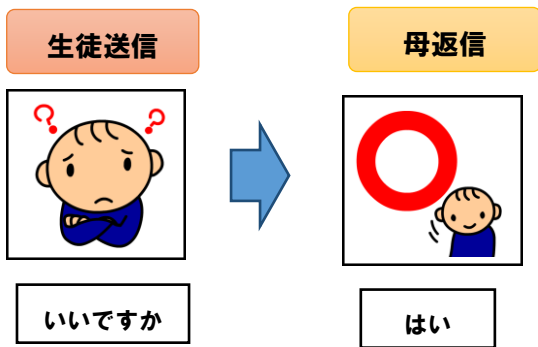
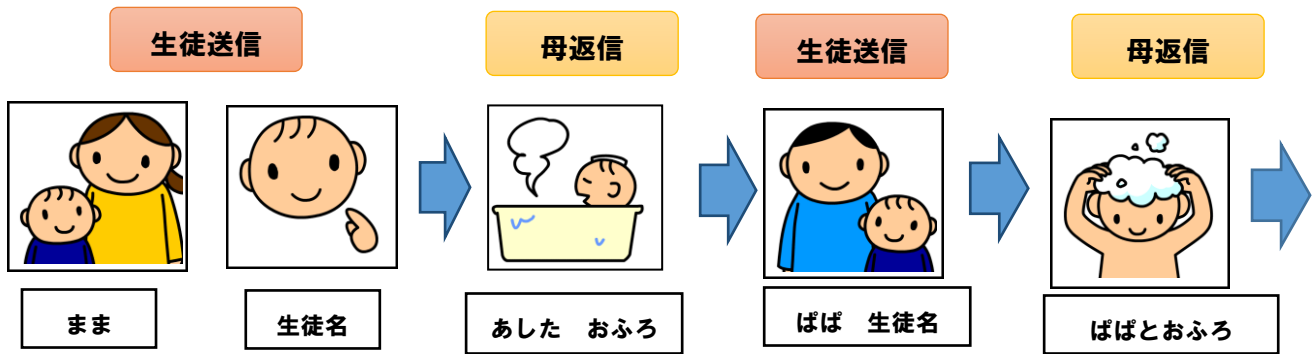


<校外学習>



飛行機 ラビート 見た 楽しかった。

保護者から聞いたことであるが、家庭でもよく iPhone を触っており、授業で新しいアプリを学習するとさっそくそれを立ち上げて色々試してみたり、家族にシンボルを使ってメールを送ったり、外出時に見つけた珍しいものなどを写真に撮ったりしているようである。また自分の生立ちアルバムを母に作成してもらい教員に見せて共感を求めたり、学習発表会の舞台発表を母に録画してもらい自分で振り返るなど生活の中で iPhone の利用が進んでいることがうかがえる。



学校では文字の入力は教員の介入が必要であったが、家庭ではシンボルと一緒に文字も送ることができている。仕事に出ている母に宛てて送信したもので、父と一緒に入浴してよいかを尋ねることができている。

・その他エピソード

母に頼まれた物を買に行き、購入したものを手渡す時、「ありがとう」という感謝の言葉をかけてもらいほめられると、とても嬉しそうであったことを連絡帳で知ることができた。家族に助けをもらうことが多い生徒が、家族のためにしてあげられたことへの満足感・達成感が、この買い物学習を通して得られた。

また、iPhone を使用して単独での買い物ができるようになり、社会参加への入り口に立てたように、卒業後も、買い物だけでなく友達と遊びに行くなど家族から離れて行動する経験を重ね、自分の意思を伝える力をつけていく中で、将来の就労・自立した生活そして色々な社会参加への道へとつながっていくのではないかと考える。

